



各 位

会 社 名 エヌアイシ・オートテック株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 西川 浩司  
 (JASDAQ・コード5742)  
 問 合 せ 先 管理部管理グループ長 藤井 透  
 電 話 076-425-0738

## 業績予想値と決算値の差異に関するお知らせ

平成21年10月30日に公表いたしました平成22年3月期の業績予想値と、本日公表の決算値に差異が生じましたので、下記の通りお知らせいたします。

## 記

## 1. 平成 22 年 3 月期 通期業績予想値と決算値との差異 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

|                              | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 | 1株当たり当期純利益 |
|------------------------------|-------|---------|---------|-----------|------------|
|                              | 百万円   | 百万円     | 百万円     | 百万円       | 円 銭        |
| 前回発表予想 (A)                   | 3,137 | 0       | 8       | 22        | 403.75     |
| 今回実績 (B)                     | 2,556 | △169    | △150    | △74       | △1,358.20  |
| 増減額 (B-A)                    | △581  | △169    | △158    | △96       | —          |
| 増減率 (%)                      | △18.5 | —       | —       | —         | —          |
| (ご参考) 前期実績<br>(平成 21 年 3 月期) | 5,735 | 253     | 265     | 164       | 3,017.02   |

## 2. 差異が生じた理由

当事業年度における世界的経済情勢は、一昨年秋以降の経済混乱から、日本や欧米先進国などでは大きく経済活動が停滞いたしました。その後、各国において、さまざまな経済対策がなされ、部分的に回復の兆しも見られるようになったものの、先行き不透明な状況にあります。

当社はこのような状況に対し、製造原価の徹底した削減に加え、役員報酬のカットを始めとした販売費及び一般管理費の大幅なコスト削減も実施いたしました。その一方では、翌事業年度以降に見込まれる世界経済の回復を見据えて、全社の組織体制を再編成し、顧客や業界に対して迅速かつ効率的な営業活動ができる体制を構築いたしました。更にグローバル展開及び拡販に向けて、以下のような戦略的投資活動を積極的に行ってまいりました。

① 「カクチャ™」※1・「マーキングシステム™」※2などの研究開発投資等に73百万円

② 新営業拠点(アルファフレーム九州)の開設等に10百万円超

このため、営業損失幅が拡大する結果となりましたが、翌事業年度以降の成長を確実なものにするため、上記のような戦略的先行投資を行いました。

第3四半期には受注状況に明るい兆しが見え始め、第4四半期には商事部門及びアルファフレーム部門の売上高は回復傾向となりましたが、装置部門では受注見込案件の延期等による売上高の減少があり、全社の通期業績値としては前回発表した予想数値の売上高、利益を確保するまでには至らず、差異が生じる結果となりました。なお、法人税等調整額の戻入計上にて当期純損失は74百万円となりました。

※1 「カクチャ™」(世界初の3次元自動設計システム)とは、専用に開発した3D-CADソフトにより、当社の主力製品「アルファフレームシステム」の見積から設計・組立指示までの技術情報を提供するサービスのことです。

※2 「マーキングシステム™」(世界初の組立省力化システム)とは、「カクチャ™」に蓄積したデータベースを基にアルファフレーム上に専用プリンターで組立指示を直接印字し、組立作業時間の大幅な削減(当社データ比30~40%)を可能とするサービスのことです。